

## 令和3年度 南魚沼市地域包括ケア連絡協議会活動のまとめ

- 【目的】南魚沼市における在宅医療及び介護を推進するための体制づくり等を図る
- ①南魚沼市における地域包括ケアの推進に向けた取組み
  - ②多職種研修会の開催
  - ③地域住民への在宅医療・介護の普及啓発
  - ④その他必要な事項

- 地域のめざす姿
- 生活を分断しない在宅連携と地域づくり
  - 地域共生社会の実現
  - 地域の力を引き出し、組織力を活用



「本人の選択と本人・家族の心構え」について、丁寧に支援していく必要がある。

医療と介護の連携が不十分で本人の選択や心構えが不利益になるようなことをできるだけ解消していく丁寧な連携が必要である。

項目	背景	ねらい	実施状況・結果
協議会会議			<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回：8/23（月）19時 これまでの取り組みの振り返りと今年度計画について</li> <li>・第2回：3/28（月）19時 今年度の取り組み報告と次年度計画について</li> </ul>
地域住民への普及啓発	<p>これまで「家族に介護が必要になったら…住みたいところで自分らしく生きる、自分らしく逝く」をテーマに市民フォーラムを実施してきた。</p> <p>自分や家族が介助を要する状態になった時に備えて、抱えている不安や知りたいことを専門職と共に考え意見交換ができると、心構えをつくる経験になると考えられる。</p>	<p>地域包括ケアシステムの深化・推進をめざすには、根幹である「本人の選択と本人・家族の心構え」について、地域住民と共に話し合う必要がある。これまで、市民フォーラム等で取り組んできたテーマだが、心構えの部分に具体的に焦点を当ててはどうか。</p>	<p>＜市民フォーラムの実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：できる限り、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで</li> <li>・10/30（土）14：00～15：40、会場：上田農村環境改善センター体育館</li> <li>・小規模多機能介護センターつくしの家、るあな訪問看護ステーションから実践報告。</li> <li>・参加総数47人（一般市民：22、上田ふるさと協議会2、協議会委員6、介護施設3、シンポジスト2、市職員12）</li> <li>・上田地域づくり協議会の協力で開催できた。”上田地域で最後まで暮らすにはというねらいに絞り、できるだけ具体的に自分のこととして考えられるようなプログラムを組んだ。</li> <li>・つくしの家、るあな訪問看護ステーションのパンフレットや「介護期あんしんガイド」の説明も具体的に行った。</li> <li>・アンケートを見ると、住民は介護施設と訪問看護の具体的な取り組み例を知り、介護が必要になった時のイメージを自分なりに持てたようだ。このような事例をもっと知りたいなどの意見もあった。</li> </ul>
医療・介護関係者の研修	<p>自分や家族が介助を要する状態になっても自分らしい生活を支えるために、専門職が互いに理解し連携を深化させる必要がある。</p> <p>令和元年度に地域包括ケアのなかまたちをテーマに栄養士、薬剤師、ヘルパー、歯科衛生士に焦点を当て理解を深めた。令和2年度は新型コロナの影響で計画変更し在宅医療推進センターと協働でオンライン月1セミナーを実施した。</p>	<p>「本人の選択と本人・家族の心構え」を支えるために、専門職が互いの連携を深化させる必要がある。</p> <p>あらゆるケアの場面は回復をめざす地域リハビリテーションの理念が流れている。その根幹を支えるリハビリ職の仕事について理解を深めてはどうか。</p>	<p>＜多職種研修会の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：地域包括ケアのなかまたち（その2）</li> <li>・12/17（金）18：00～19：30 会場：本庁舎大会議室（オンライン併用）</li> <li>・本人選択と本人、家族のこころがまえを、多職種で支えていく、急性期・回復期・慢性期とあらゆる段階の地域リハビリテーションの理念を理解するねらいで、市内5施設の医療介護関係機関のリハビリ職から報告。</li> <li>・総参加数104人（参加者88、発表者リハビリ職関係11、市民病院事務部長、事務局4）（オンライン参加約60）</li> <li>・オンラインを取り入れたことで参加しやすく多数の参加があり、アンケート結果は好評だった。</li> </ul>
医療介護連携共通シート	令和3年4月～運用開始		<p>＜医療介護連携シート「医療介護相談・連絡票」についてのアンケート実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的：4月から運用開始したが、状況を知り改善につなげるための中間評価とする。</li> <li>・調査期間：7/29～8/16 調査対象者：市内の医療機関及び介護サービス事業所</li> <li>・調査方法：メール、FAX</li> <li>・アンケート調査結果を見ると、医療機関からは”書かれている質問内容について意図や目的が伝わらない”といった声が複数あった。今後の見直しを進めていく。</li> </ul>